

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービス にじ			
○保護者評価実施期間	令和7年 3月 10日		～	令和7年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数)	11名
○従業者評価実施期間	令和7年 3月 10日		～	令和7年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)	
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 4月 30日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○適切な人員配置を行ない各専門分野が連携し医療ケア・療育など適切な支援を行なっている。 ・各専門職の配置においては基準を満たしている。医療ケア度、重度心身障害児の利用が集中する場合は基準以上の人員を配置して支援に当たっている。 ・医療ケアが必要な児に対しては石指示書に基づいて看護師による適切な医療ケアが受けられるよう支援している。 ・各児が可能な限り自立して生活できるよう理学療法士を中心にリハビリテーション、日常生活動作訓練をおこなっている。	・子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられるよう、保育士、看護師、理学療法士がチームとなり個別の支援を中心に療育を取り入れている。 例えば、学校からデイへ到着した際は全身チェックを行い ①看護師により医療ケアを受ける児童。 ②セラピストによりリハビリを受ける児童。 ③保育士による保育(教育)を受ける児童。 ①～③の分野が連携して時間配分を行い個別の療育を行っている。 ・長期休暇に入るとデイで過ごす時間が長くなるため①～③の療育を行いながら集団の活動を通しての学びの場を取り入れている。	・各専門職(看護師、理学療法士、保育士)が定期的な研修や勉強会に参加。それらを通じてスキル向上を図る。 ・保護者とのコミュニケーションを密にし、利用者家族からの意見を反映させ改善につなげる。 ・児童発達支援管理責任者の計画書をもとに、保育士、児童指導員(3名)・看護師(4名)・理学療法士(3名)(呼吸、姿勢など専門分野PTにてアプローチ)がチームとなって医療的ケア、児童の発達支援、療育活動に取り組んでいけるよう、外部から講師を招いて勉強会を開いていき意識して取り組んでいく。
2	○利用者中心のケア・保護者支援の重視 ・保護者・職員間での信頼関係がしっかり構築されている。 ・一度も保護者から苦情や指摘を受けたことがない。 ・保護者支援を重視している。	・各児の生育、生活歴、健康状態、個別のニーズに基づいて児発管を中心に各専門職がチームになり話し合いを行い個別支援計画書を策定し個々にあった療育の提供。 ・定期的なモニタリング、児童の送迎時などを利用して保護者との定期的なコミュニケーションを図り児童の様子や療育の進捗状況を共有するとともに保護者の意見や希望を積極的に取り入れることで支援の質の向上を図っている。	リモート相談や情報共有ができるオンラインなどITシステムの基盤を構築しつつも、どこでもアクセス可能な支援の取り組みを図る。 ・保護者がリフレッシュできるイベントや保護者会を定期的に開催しコミュニティの場を設けていく。
3	○利用者との情報伝達などを十分に配慮している ・毎月欠かさず新聞を発行し活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信し子供の成長をともに喜んでいます。	・活動内容を写真で残り児童の成長や変化の観察など詳細を記録に残し毎月発行する新聞へ掲載し児童個々の成長、エピソードを紹介している。 ・連絡ノートを活用し日々の様子を保護者へ報告、自宅への送迎の際に保護者とのコミュニケーションをしっかりと行い保護者からのフィードバックを受け取るように意識している。	・個人情報保護の観点から保護者一人一人にIDを作成し個人情報の発信、日々のデイでの様子、写真、映像の提供などのやりとりはそのIDから入る仕組み作りを行っている。令和25年5月ごろ試験的にスタートし必要に応じてブラッシュアップしていく。 ・保護者ID管理はしっかり行って行く。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○保護者父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等保護者同士の交流の機会が少ない。 ・保護者が安心して活動に取り組める場所の確保と時間の設定が必要。 ・重度の医療ケア児が多いため保護者会開催の際はボランティアの確保が必要。	・重度心身症が児(医療的ケア児)児童デイの利用定員が1日5名と定められているため保護者会開催に祭りはそれ以上の児童を受け入れることが難しい。(児童の預け先、活動先の確保が難しい) ・各児童がデイ以外のサービス(訪問ヘルパー・訪問看護・訪問リハ)の介入があり時間の調整が難しく保護者会や交流への参加が難しいご家庭が多い。	・保護者会開催を円滑に開催するためには看護師を含めたポ定員以外の児童はボランティアで受け入れお預かりし安心して保護者会や保護者同士の交流会へ参加できるような取り組みが必要である。
2	○家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等がしっかり行っていない。	重度心身障害児、医療的ケア児を抱える家族に対して、必要なプログラムや研修を提供しようとするが在宅での介護や医療ケア等の様々な理由により研修に参加するための時間の確保が難しい家族がほとんどである。	・研修の開催日時を家族の都合に合わせて柔軟に設定し、平日だけではなく週末の開催や個別での研修参加も検討したい。 ・移動の負担を減らすために、オンラインで参加できる研修を提供し家族が自宅から参加できるようにしたい。
3	○児童の活動スペースが狭い ・使用しない道具の処分 ・「いつか使うかも?」と使用予定のない道具や教材がスペースを圧迫している。	・未就学の時は気にならなかったが、児童が成長し体が大きくなったこと、使用しているバギーも大きくなり保管場所では収まらなくなったため以前に比べ圧迫感を感じ狭さを感じる。	・事業所の移転の検討 ・事業所内での活動と屋外活動と活動を分散させるなど、活動計画の見直し。